第21回日本婦人科がん検診学会総会・学術集会
「HPVワクチン時代の子宮頸がん検診」
[WACC in Japan; Women Against Cervical Cancer in Japan ランチョンワークショップ]
「最新の子宮頸がん検診、知っていますか？」
報告

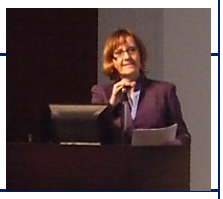
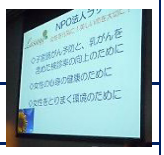
■日　　時：　2012年10月20日（土）11時20分～13時30分
■会　　場：　イイノホール＆カンファレンスセンターRoom A
（〒100-0011　東京都千代田区内幸町2-1-1）
■共　　催：　ホロジックジャパン株式会社
子宮頸がん征圧をめざす専門家会議
■協　　力：　日本子宮頸がん予防・啓発連絡会議
株式会社明治
■参加人数：　約240名（産婦人科医、細胞検査士、
啓発団体、議員、メディアなど）

■啓発団体展示

子宮頸がん征圧をめざす専門家会議

上から：特定非営利活動法人子宮頸がんを考える市民の会、
一般社団法人ティール＆ホワイトリボンプロジェクト、
女子大生リボンムーブメント

プログラム

11:20 － 11:50	**1. アメリカの子宮頸がん検診リコメンデーション最新情報** 座長：平井　康夫（東京女子医科大学産婦人科） 演者：林　由梨（自治医科大学附属さいたま医療センター産科婦人科）
11:50 － 12:50	**2. 市民へのアドボカシーに取り組む学会・自治体・検診機関・啓発団体の交流** 座長：小西　宏（公益財団法人日本対がん協会） 宮城　悦子（横浜市立大学附属病院化学療法センター） ① 子宮頸がん検診受診率を高めるには…対象を絞る、それぞれの対象に応じたメッセージを発信する、参加型にする、ひとり一人に発信者になってもらう…様々な団体と連携した活動の試み 小西　宏（公益財団法人日本対がん協会）  ② Effective Communication Strategies for Cervical Cancer Prevention シャロン・ハンリー （北海道大学医学研究科生殖内分泌・腫瘍学分野、日本赤十字北海道看護大学） ③ 地域・コミュニティーからの子宮頸がん予防～横浜・神奈川子宮頸がん予防プロジェクト～ 宮城 悦子（横浜市立大学附属病院化学療法センター） **検診へ行こう－子宮頸がん啓発団体の紹介（1団体3分）** ④ 認定NPO 法人女性特有のガンのサポートグループ オレンジティ 河村　裕美 ⑤ 行政・議員へのアプローチ～特定非営利活動法人子宮頸がんを考える市民の会 渡部　享宏 ⑥ 豊島区・横浜市の事例から～女子大生リボンムーブメント 新井　涼子 ⑦ 山梨まんまくらぶ　　若尾　直子 ⑧ 一般社団法人ティール＆ホワイトリボンプロジェクト 川上　祥子 ⑨ 卵巣がん・子宮頸がんの患者会＊らんきゅう＊ 穴田　佐和子 ⑩ NPO 法人子宮頸がん啓発協会Think Pearl 難波　ミチヲ  ⑪ NPO 法人ラサーナ（産科婦人科舘出張佐藤病院）　福田　小百合（発表代理：中村和代） ⑫ 子宮頸がん検診受診率を高めるには？－当会議が行っているさまざまな試み～ 中村　和代・堀内　吉久（子宮頸がん征圧をめざす専門家会議）
12:50 － 13:30	**3. ディスカッション**

■概要

第21回日本婦人科がん検診学会総会・学術集会は、当会議 実行委員長である今野 良（自治医科大学附属さいたま医療センター産婦人科教授）が会長を務め、初めての試みとして、WACC in Japan と題した医療者と啓発団体との交流の機会が作られた。
約2時間10分にわたるランチョンワークショップには、産婦人科医や細胞検査士など、日本の婦人科がん検診に関わる専門家や、啓発団体、議員、メディアなど約240人が参加した。

前半では、自治医科大学附属さいたま医療センター産科婦人科の林 由梨さんや当会議委員である公益財団法人日本対がん協会の小西 宏、同じく日本赤十字北海道看護大学准教授のシャロン・ハンリー、同横浜市立大学附属病院化学療法センター長の宮城悦子がそれぞれの専門分野からの子宮頸がん予防に関する最新の研究結果、活動などを報告した。

後半では、子宮頸がん予防に関して活動を行っている啓発団体である、9団体による団体の紹介や子宮頸がん予防啓発のための独自の取り組み、今後のテーマや活動についての発表を行った。
“特定非営利活動法人子宮頸がんを考える市民の会”は千葉県松戸市で行政を巻き込んだコール・リコールの実績を紹介し、“女子大生リボンムーブメント”は東京都豊島区で行った手書きメッセージ郵送による受診勧奨の成果を報告した。“一般社団法人ティール＆ホワイトリボンプロジェクト”は、朝日新聞社の医療・健康サイト「apital」で今年12月に子宮頸がん夜間学校を動画配信することを公表し、“NPO 法人子宮頸がん啓発協会Think Pearl”は、ヨーロッパを中心に世界36か国で展開している「PEARL OF WISDOM」の37か国目となる日本の団体として活動することを報告した。
患者団体である“認定NPO法人女性特有のガンのサポートグループオレンジティ”は、静岡県から全国に向けた啓発活動の展開として「患者向け出張おしゃべりルーム」の開催を発表し、岩手県の“卵巣がん・子宮頸がんの患者会＊らんきゅう＊”は、県立病院内にリンパ浮腫外来を開き、後遺症に悩む患者さんのサポート活動について紹介した。山梨県の“山梨まんまくらぶ”は七位一体での啓発に取り組み、2012年9月23日に子宮頸がんの市民公開講座を開催したことを報告した。“NPO法人ラサーナ“は子宮頸がん予防啓発マラソン「高崎ウィメンズマラソン大会」を翌日（10月21日）に開催する旨、当会議 事務局長の中村和代より伝えた。

ランチョンワークショップ後には、啓発団体ブース前に列ができ、多くの参加者が啓発冊子や啓発グッズを手にしている姿が見られ、興味関心を持っていただいたことが分かった。産婦人科医や細胞検査士などの専門家と啓発団体との間に交流が図られたことが実感できる催しだった。
このランチョンワークショップを通して、今後より一層子宮頸がん予防活動が活性化され、ネットワークが広がり、子宮頸がん征圧に近づくことを期待したい。

会場の様子

啓発団体ブース前